この PPC 封筒にはシンクロニ模試問題文が入っています。

10 月 5 日 9:55 に開封してください。

10:00 スタートとしてください。

会場受験に変更する方は模試まで絶対に開封しないでください。

シンクロニ模試は会場では 10 時 30 分から、自宅では 10 時から、全国一斉に行う模擬試験です。
（会場受験に変更する方は、間に合うように各会場に 9:45～10:00 にお越しください。座席にはある程度余裕があるのでお越しいただいても座れると思いますが、できる限り、会場受験の方は事前申込をお願いします。）
guchi@seizushiken.com

■10/5 土曜日　東京会場：ハロー会議室半蔵門　千代田区　平河町　1-2-2　朝日ビル　5 階
東京メトロ半蔵門線　半蔵門駅　1 番出口　徒歩 1 分

■10/6 日曜日　大阪会場：キング会議室　大阪市淀川区西中島 5-13-14　新大阪 GTC ビル 4 階
新大阪駅正面口から徒歩 3 分　御堂筋線・西中島南方駅から徒歩 7 分

1）A2 用紙折りしわを伸ばして前日から準備をしてください（コース生は既に作図用紙は配布済）
（作図用紙は製図試験.com 用紙でなくてもかまいません）
2）10 月 5 日 9:55 に開封し、10:00 よりスタートしてください。
3）16:30 終了と共に、郵便で
4）できる限り 17:00 くらいまでに送付してください。
（解答用紙と要点用紙のみでエスキースは不要。郵送なら 140 円）
5）念のためバックアップコピーをお願いします。
6）10 月 7 日に着いていない答案は、9 日発送をお約束できかねますので御了承ください。

コース生及びシンクロニ模試にお申込・ご入金の方には、回答図面の送付にかかわらず解答例、解説、をお送りいたします。6 時間半を過ぎた解答でも添削しますが、評価対象外とします。完成死守をめざしてください。
お申込後、お振込が確認できていない方は添削等できませんので御了承ください。
↓
独自採点模試結果は、サイト上で 10 月 10 日（木曜日）にアップ予定です。解説動画もここでお知らせします。

http://seizushiken.com/2019synqsynk/

では健闘を祈っています！

製図試験.com　代表　山口　達也

同梱物：本紙、問題文、答案用紙 II、（一般のみ薄紙用紙 2 枚）

令和元年度一級建築士試験「設計製図の試験」問題用紙

令和元年(2019 年)度製図試験.com 後半戦シンクロニ模試「美術館の分館」 ver191001

Ⅰ. 設 計 条 件

この課題は、ある小都市に建つ美術館(以下本館)への新たなニーズとして、市民創作や展示を主体とした分館を、本館敷地の彫刻広場周辺を分割して計画するものである。これまでの敷居の高い美術館のイメージを払拭すべく、オープンな市民芸術広場や、24 時間利用可能な多目的ホールを含む新たな芸術の胎動を感じさせる機能が要望されている。

1. 敷地及び周辺条件

(1)敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」のとおりである。
(2)敷地は平地で、道路及び隣地との高低差はない。
(3)敷地は、都市計画区域外であるが、建ぺい率の限度は 70%、容積率の限度は 200%に指定されている。また北側道路境界から 10m までの部分は景観地区に指定されており、道路面から 12m 以下の高さに制限されている。
(4)電気、ガス及び上下水道は、完備している。
(5)地盤は「地盤略断面図」の通りである。
(6)気候は温暖で積雪の配慮はしなくてよい。

2. 建 築 物

(1) 構造、階数等
地上 3 階建ての建物とし、構造形式は自由とする。美術品展示制作のため各階高さを 4.5m 以上とする。
(2) 床面積の合計
地階を除く床面積の合計は、2,900m2 以上 3,300m2 以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段は、床面積に算入しないものとする。なお、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(娯楽スペース、設備スペース、駐車場等)については、床面積に算入するものとする。また、エレベーターシャフトは容積率には算入しないものとする。
(3) 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	室 名	特 記 事 項	床面積
1 階部分は 24 時間利用可能となるように計画する。			
市民創作展示部門	展示室1	・市民作品の展示やイベントを行う。 ・天井高さ 4m 以上とする。 ・12m の円を内包するものとし、無柱空間とする。	210m2 以上
	展示室2	・市民作品の展示やイベントを行う。 ・天井高さ 4m 以上とする。 ・10m の円を内包するものとし、無柱空間とする。	170m2 以上
	展示室3	・市民作品の展示やイベントを行う。 ・天井高さ 4m 以上とする。	約 90m2
	セミナー室	・セミナー等に用いる。	約 60m2
	ワークルーム 1	・ダンス等のパフォーマンスアートを行う。 ・防音・防振に配慮する。 ・壁面を鏡とする。	約 120m2
	ワークルーム2	・木工加工を含む工作系のワークルームとする。 ・製材室(面積適宜)、ワークテーブル、流し台及びロッカー等を配置する。	約 90m2
	ワークルーム3	・洋画系のワークルームとする。 ・流し台、ロッカー及び倉庫等を設ける。	約 60m2
	ワークルーム4	・日本画系のワークルームとする。 ・流し台、ロッカー及び倉庫等を設ける。	約 40m2
	ワークルーム5	・映像系のワークルームとする。 ・パソコンデスク、プロジェクター等を設ける。	約 20m2
	更衣室	・男女別とし、ロッカー、洗面、シャワー等を設ける。 ・車椅子対応とする。	計約 60m2
	資料室	・アート関連の資料閲覧を可能とする。 ・書架、テーブル、イス、貸出カウンター等を設ける。	約 120m2
	アトリエ事務局	・ワークルーム管理を行い、受付カウンターを設ける。 ・講師控室、倉庫を設ける。	約 60m2
共用部門／他	エントランスホール	・本館及び市民芸術広場からのアクセスに配慮した位置に風除室を設ける。 ・上部には 3 層の吹抜け(80m2 以上)を設け、トップライトを設ける。 ・案内カウンターを設ける。 ・ロッカールーム(面積適宜)を設ける。 ・アートショップ(50m2 以上)を設ける。	適宜
	カフェ	・テーブル、イス、カウンターで 44 席以上設ける。 ・厨房を設ける。 ・市民芸術広場からも出入りする。	適宜
	多目的ホール	・天井高さ 6.5m 以上とし、無柱空間とする。 ・窓から本館が望めるように配慮する。	210m2 以上
	ホワイエ	・多目的ホールの客だまりとして設ける。	約 120m2
	ラウンジ	・各階に設ける。ソファ、テーブルを配置する。	適宜
	コンセプトルーム	・設計主旨に沿ったコンセプトルームを提案する。 ・その具体的な内容や設いは計画の要点に示す。	適宜
	事務室	・5 人分の事務スペース(5m2/人以上)とする。 ・案内カウンターは事務室に設けなくてもよい。	適宜
	荷解室	・市民の展示等の搬出入のための荷降・荷解を行う。 ・前面をシャッターとしトラックスペース(7.5x4m)を確保する。搬出入は西門から行うものとする。	50m2 以上
	受水槽室	・wxdxh=2x3x3 程度の受水槽を建物内部に設ける。	適宜
設備スペース		・その他、各自が採用した設備計画に応じて、室外機置場等を計画する。	適宜
・上記の室に関連して必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。			

3. 屋 外 施 設

(1) 駐車場は平面駐車とし車いす駐車場を 2 台分設ける。それ以外の駐車は本館駐車場を利用する。なお美術館敷地内は歩車分離していれば、自由に車道、歩道が計画できるものとする。
(2) 駐輪場は平面駐輪で 2.0mx0.5m/台とし、25 台分以上を設ける。
(3) 美術館敷地内は 9 時から 17 時の運営であるが、24 時間出入り可能な市民芸術広場(面積 200m2 以上とし、庇、ピロティ下部は含まず。アプローチと兼用してもよい)を設ける。ベンチ、植栽等を設ける。
(4) 展示室等での鑑賞の休憩場所として、屋上庭園(210m2 以上)を 1 階屋上(2 階床高さ)もしくは 2 階屋上(3 階床高さ)に設ける。

4.留 意 事 項

建築計画、構造計画及び設備計画については、次の点に留意して計画する。
(1) 建築物はバリアフリー、セキュリティ、省エネルギーに配慮する。
(2) 各要求室について適切にゾーニングした計画とするとともに、明快な動線計画とし、かつ避難等にも配慮する。
(3) 敷地条件(方位等)や周辺環境に配慮するとともに、空調負荷の抑制や自然光の利用、日射遮蔽及び通風等を用いて、建築環境負荷低減に配慮する。
(4) 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに経済性にも配慮する。
(5) 構造種別、架構形式、スパン割及び基礎構造について適切に計画すると共に、適切な断面寸法の部材を配置する。
(6) 給排水衛生設備、電気設備等を適切に計画する。市民作品の搬出入用に昇降機設備(カゴ寸法 2mx2m)を設ける。
(7) 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分には、所定の防火設備を適切に計画する。また、防火区画(面積区画・竪穴区画)が必要な部分には、所定の防火設備を用いて適切に区画する。なお、本建築物は、自動式のスプリンクラー設備等を設けないものとし、また「避難上の安全の検証」を行わないものとする。
(8) 3 階部分で道路等に面する外壁に非常用進入口もしくは進入口に代わる窓など(代替進入口)を設ける。
(9) 避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を適切に計画する。また、必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。

Ⅱ. 要 求 図 書

答案用紙Ⅰの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。なお各図面には、必要に応じて計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

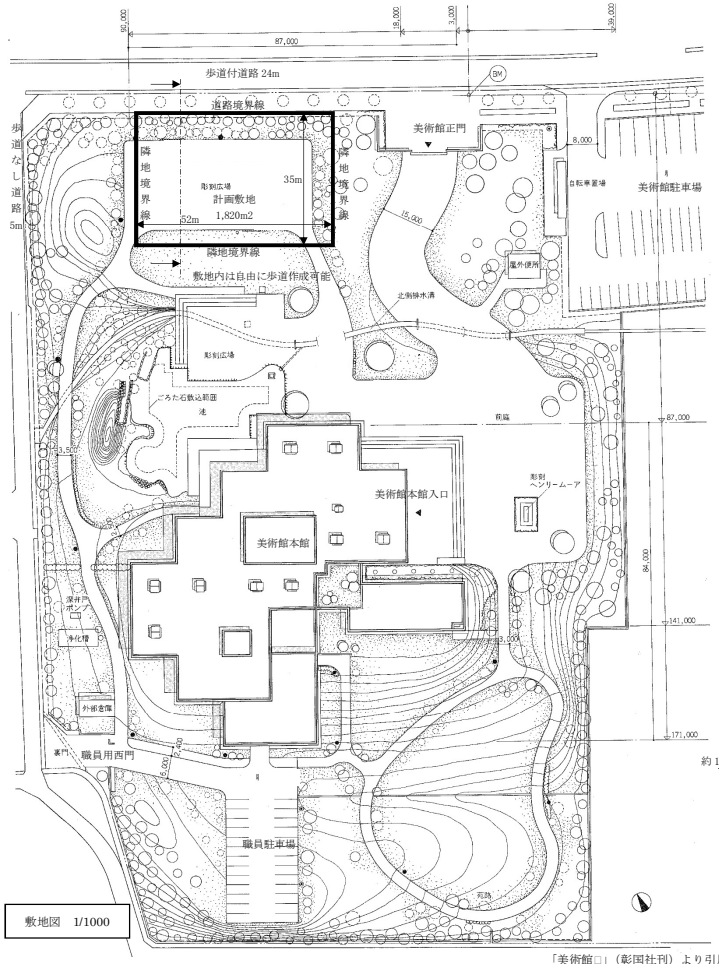
図面及び縮尺	特 記 事 項
(1)1 階平面図兼配置図 1/200 (2)2階平面図 1/200 (3)3 階平面図 1/200	① 1 階平面図兼配置図、2 階平面図及び 3 階平面図に、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ.室名等 ハ.設備シャフト[パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ニ.設備計画に応じた設備スペース(ただし、屋上に設けた場合は断面図に図示する。) ホ.断面図の切断位置 ヘ.要求室の床面積 ② 1 階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ.建築物の出入口 ロ.駐車場(台数及び出入口を明示する。) ハ.敷地内通路及び避難上有効な寸法の明示 ニ.市民芸術広場、通路、植栽等 ③2 階平面図及び 3 階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.下階の屋根、ひさし等となる部分、屋上庭園 ロ.居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離、及び重複区間の距離 ④3 階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ.非常用進入口もしくは代替進入口(△)の位置
(3)断面図 1/200	① 切断位置は、エントランスホール吹抜けを含むものとする。なお水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を含む建築物の高さ、階高、天井高、1 階床高、基礎底盤及び主要な室名を記入する。 ④ 梁、壁、基礎、スラブの断面を図示する。 ⑤ 延焼の恐れのある部分及び防火区画の防火設備、特定防火設備を図示する。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

(1) 地上 1～3 階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。また建ぺい率及び容積率とその計算式についても記入する。

3. 計画の要点等

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
(1) 美術館本館を含む周辺環境に対して建築物の計画において配慮した点
(2) 1 階を 24 時間利用するために、動線及びゾーニング計画、セキュリティに配慮した点
(3) コンセプトルームの内容と設えについて具体的に配慮した点
(4) 地盤条件及び経済性を踏まえた上で、採用した基礎構造、その支持地盤について、特に配慮したこと
(5) 柱、大梁、小梁、床版について採用している主要な部材寸法
(6) 敷地条件(方位等)や周辺環境に対して、空調負荷の抑制や自然光の利用、日射遮蔽及び通風等を用いて、建築環境負荷低減に配慮した点
(7) 排煙計画について配慮した点
(8) 多目的ホールの照明計画について配慮した点



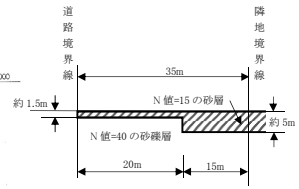
敷地図 1/1000

「美術館□」(彰国社刊) より引用

敷地図解説
美術館全体は約 38,000m2 の敷地で、今回その一部の彫刻広場であった部分を中心として、別敷地扱いで分館を計画することとなった。
美術館全体の敷地は一体的な利用を行っており、美術館敷地内への利用者アプローチは北側正門、管理者職員のアプローチは西門となっている。
分館の計画敷地へは正門及び本館等との関係性を考慮した上でどのようにアプローチしてもよい。また美術館敷地内の車道、歩道は歩車分離できている限り自由に計画してよい。
本館は9時-17時の運営であるが、分館は 1 階のみ 24 時間運用が可能な計画とすることが求められているため、動線やセキュリティについての配慮が必要である。
敷地北側の街路樹については、アプローチのための植え替え可とする。

分館敷地
東西 52m　南北 35m
敷地面積：1,820m2

本館
RC2 階建て　約 7,000m2

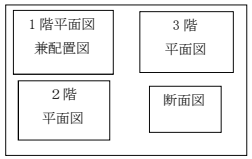


地盤略断面図　non-scale

防火設備等の凡例
(特)、(防)等の表示は、必要な箇所(外壁の開口部、断面図も含む)に全て記入すること

【建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置(延焼ライン)と防火設備】	【防火区画に用いる防火設備の位置及び種類】 防火区画(面積区画・竪穴区画)に応じて、要求される所定の防火設備の位置及び種別を記入すること	
	特定防火設備	法 2-九-二ノロに規定する防火設備
延焼のおそれのある部分の距離(各階とも) →○m 隣地境界線又は道路中心線 防火設備の種類 (開口部) 建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分がある場合においては、隣地境界線又は道路中心線から延焼のおそれのある部分までの距離(m)を記入し、延焼ラインを破線で図示すること また、建築物の外壁の開口部で、延焼のおそれのある部分の開口部に要求される所定の防火設備の種別を記入すること	(特)	(防)

5. 図面レイアウト(製図試験.com 課題指示:本試験では解答用紙Ⅰに記載)



■添削について
コース生・添削希望者は、図面、要点(のみとしエスキースは不要)を同封して下記住所までお送り下さい。**〆切は 10 月 7 日(月)必着**。添削及び最終資料は水曜日に発送予定です。
〒554-0012 大阪市此花区西九条 2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付前に図面は必ずコピーを取ったのち、その原本を 4 つ折りして角 2 号封筒を使用してください。10 月 6 日以降でももちろん添削しますが、図面添削が水曜日発送に間に合わない可能性があります。
(オンラインデータではお届けできます)

試験場		受験番号	□□-□□□□□□	HN		製図試験.comID	

2019年度製図試験.com後半戦シンクロニ模試　答案用紙II

建築計画、構造計画及び設備計画について、次の要点等を具体的に記述する。
なお、要求図面では表せない部分についても記述する。

(1)美術館本館を含む周辺環境に対して建築物の計画において配慮した点(図を使って説明する)

図示欄

(2) 1階を24時間利用するために、動線及びゾーニング計画、セキュリティに配慮した点

(3)コンセプトルームの内容と設えについて具体的に配慮した点

(4)地盤条件及び経済性を踏まえた上で、採用した基礎構造、その支持地盤について特に配慮したこと

(5)敷地条件(方位等)や周辺環境に対して、空調負荷の抑制や自然光の利用、日射遮蔽及び通風等を用いて、建築環境負荷低減に配慮した点(3点。図示してもよい)

図示欄

(6)排煙計画について配慮した点

(7)多目的ホールの照明計画について配慮した点(多目的ホールに図示してもよい)

質問欄

※要点・図面・エスキースの裏面には念のため、氏名のみお書き添えください。

2019年度製図試験.com後半戦シンクロニ模試 答案用紙II

ID:31　ハンドルネーム: